

平成 29 年度 (2017)

京都大学

Kyoto University

文部科学省 博士課程教育リーディングプログラム 複合領域型(安全安心)

Program for Leading Graduate Schools, MEXT

(Multidisciplinary Field of Safety and Security)

グローバル生存学大学院連携プログラム

Inter-Graduate School Program for

Sustainable Development and Survivable Societies

Global Survivability Studies Program (GSS)

3年次編入生 募集要項

Third-Year Enrollment Application Guideline

平成 29 年度

Academic year 2017



京都大学学際融合教育研究推進センター

グローバル生存学大学院連携ユニット

京都市左京区吉田中阿達町 1 番、京都大学東一条館

Center for the Promotion of Interdisciplinary Education and Research

Inter-Graduate School Unit for Sustainable Development and Survivable Societies

Kyoto University Higashi Ichijyoukan, Nakaadachicho1, Yoshida, Sakyo-ku, Kyoto

Tel:075-762-2163 <http://www.gss.sals.kyoto-u.ac.jp>

## グローバル生存学大学院連携プログラムについて (アドミッション・ポリシー)

幅広い知識と深い専門性、柔軟な思考力と強い意志・実行力を合わせ持ち、様々な社会においてリーダーとして活躍する人材を養成することは、京都大学の使命であるとともに、産官学各界ひいては社会全体の強い要請でもある。

「グローバル生存学大学院連携プログラム」は、京都大学における9つの研究科と3つの研究所が協働し、産業界、行政機関、国際機関、国内外の大学等と協力して、安全安心分野の先進的・学際的な大学院教育を展開し、グローバル社会のリーダーたるべき人材の育成を強力に推進する。

現代の地球社会は、①巨大自然災害、②突発的人為災害・事故、③環境劣化・感染症などの地域環境変動、④食料安全保障などの危険事象や社会不安がますます大きく、かつ、広がっている。この「グローバル生存学大学院連携プログラム」では、これらの諸問題をカバーする「グローバル生存学」という新たな学際領域を開拓し（図1）、

- 1) 人類が直面する危機を乗り越え、人間社会を心豊かにし、その安寧に貢献するという使命感・倫理観にあふれた人材
- 2) 自らの専門性に加えて幅広い視野と知識・智慧によつて的確に対策を行うことのできる判断力・行動力を備えた人材

を育成する。

グローバル生存学大学院連携プログラムの修了者は、

- 一級の研究者・教育者として社会・安全システム科学分野で活躍するアカデミック・リーダー
  - 国際機関などの世界を舞台に活躍する国際的な危機管理リーダー
  - 災害・事故や経済危機を的確に対処し、企業経営を安定的・持続的に行う企業リーダー
  - 食料・資源・エネルギーなどの安全保障政策の決定に指導力を発揮する国や地域のリーダー
  - 社会の安心安全に寄与するための科学的知識・情報を伝えるサイエンス・コミュニケーター
  - 安全安心分野で新たな技術や方法論を開発して起業するニュービジネス・リーダー
- などであつて、各方面で世の中を支え、良い方向に動かしていくことのできる「人財」である。

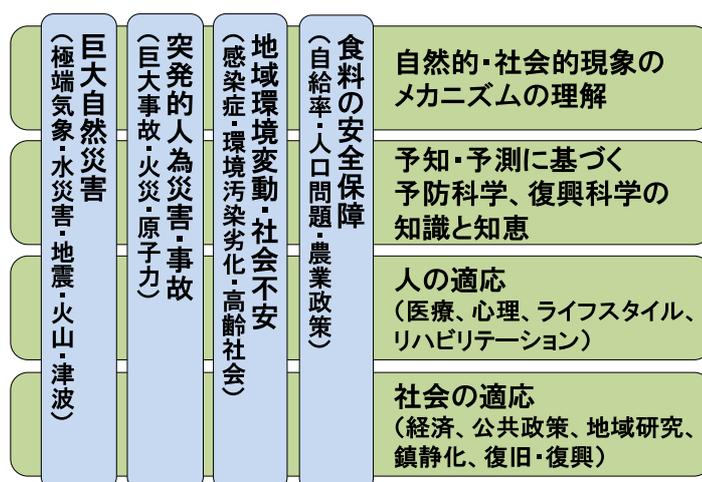


図1 グローバル生存学の範囲

上記のようなリーダーを志す有能な若者を本プログラムに迎え、充実した**5年一貫制の大学院教育**によって有為な人材を育成し世に送り出し、地球社会の調和ある共存に貢献する、というのが京都大学の願いである。

このプログラムは、各学生が所属する研究科の教育制度に定める学位課程に加えて、多くの付加的な履修項目を要求するため、特例としての3年次編入生の3年間の学生生活はかなり厳しいものになる。そこで、博士後期課程（博士課程）に入学後の4か月（4月～7月）の間は「**リーディングプログラム予科**」として、履修者（3年次予備生）をまず4月に募集・選抜し、7月までの間に全体セミナー（必修科目「グローバル生存学」の指定するセッション）等を行って、本プログラムを履修するための適性を有する優秀な人材を7月中に選考することとしている。

予科における履修者（3年次予備生）のうちから選ばれた学生は、プログラム履修者（本科生）として、8月から本プログラムが定める履修要項にしたがって、グローバル生存学の学位プログラムを本格的に履修することになる。

なお、選ばれたプログラム履修者には、リーディング博士課程における履修及び学位研究に専念するための経済支援として、受給資格（8ページ(4)参照）を満たす優秀な履修者（本科生）に対して8月から月額20万円の奨励金を支給する。また、プログラム履修者から研究計画を公募・審査し、独創的な研究活動を行うための経費として上限50万円の研究活動経費を配分するほか、研究活動経費を申請しなかった者、及び研究活動経費の受給が認められなかった者については、年額30万円を上限に学会参加旅費等を補助する。これらの経済援助期間は文部科学省「**博士課程教育リーディングプログラム**」採択期間の平成30年3月までである。

## 1. 編入条件

3年次編入学生は、以下の条件（A）または（B）を満たす者とする。

（A）社会人経験を有する者で以下の（A-1）～（A-3）のすべてを満たす者。

（A-1）学位プログラムのディプロマポリシーに合致する目的意識を持つと認められる者。

（A-2）国際機関、行政機関、研究機関や法人組織（企業、NPO、NGO などを含む）における職員として通算2年以上の経験を有する者。

（A-3）英語能力（平成27年4月以降に受験）が以下のいずれかと同等以上である者（平成29年7月6日までに証明する書類を提出すること。）

- ・TOEIC 730点以上
- ・TOEFL - iBT 79点以上
- ・IELTS 6以上
- ・国連英検A級以上

（B）上記（A）に該当しない者で以下の（B-1）～（B-4）のすべてを満たす者。

（B-1）学位プログラムのディプロマポリシーに合致する目的意識を持つと認められる者。

（B-2）GSSが必修とするフィールド実習、インターンシップ研修、国際学術交流、産学連携プロジェクト、国際共同プロジェクトのいずれかに相当するものを編入前の大学院等において実施した者。その内容が出願書類の「編入にいたるまでの活動実績書」に記載されている者。

（B-3-1）京都大学大学院修士課程からの進学者あるいは前後期一貫の博士課程に属する者は次の（ア）、（イ）のいずれかに該当する者。

（ア）GSSの履修要項に記載されるグローバル生存学大学院科目群（必修科目、選択必修科目、選択科目）のなかで履修済み（単位取得済み）のものがあること。

（イ）京都大学が提供する研究科横断型科目（学際的な科目で日本語であっても良い）、G30で提供される英語科目などのなかで履修済み（単位取得済み）のものがあること。

（B-3-2）京都大学以外の大学院から京都大学大学院博士後期課程に編入学した者は、編入前の大学院

等において履修済み（単位取得済み）の科目のうち、GSS プログラムに関連すると思われる科目を履修済みであること。シラバスを提出すること。

(B-4) 大学（学部レベル）、大学院（修士レベル）において次の（ア）、（イ）を満たす者。

（ア）学業成績が以下のいずれかを満たすこと。

- ・学業成績（「合・否」によって評価される科目を除く）において「優（80 点以上に相当）」の単位数が総取得単位数の 75%以上
- ・学業成績（「合・否」によって評価される科目を除く）において取得単位の平均点が 80 点以上

（イ）英語能力（平成 27 年 4 月以降に受験）が以下のいずれかと同等以上である者。（平成 29 年 7 月 6 日までに証明する書類を提出すること。）

- ・TOEIC 730 点以上
- ・TOEFL - iBT 79 点以上
- ・IELTS 6 以上
- ・国連英検 A 級以上

【注】3 年次編入学生は、平成 27 年に入学した本科生（L3）と同学年になるが、平成 29 年 4 月に入学し選抜された予科生（L1）とともに予科を履修しなければならない。また、博士研究基礎力審査（QE）が課される。プログラム履修生（本科生）となるためには、予科で優れた成績を修め（英語能力も含む）、QE に合格しなければならないことに留意されたい。

## 2. 募集人員

プログラム履修者（本科生）若干名

（最初の学期は「プログラム履修者（3 年次予備生）」と称する）

## 3. 出願資格

平成 29 年 4 月に表 1 の研究科・専攻の博士後期課程に進学又は編入学した者あるいはアジア・アフリカ地域研究研究科の第 3 年次に進級又は編入学した者で、上記（A）または（B）の条件を満たす者。

表 1 グローバル生存学大学院連携プログラムに参画している研究科・専攻

教育学研究科	全専攻（教育科学専攻、臨床教育学専攻）
経済学研究科	全専攻（経済学専攻）
理学研究科	地球惑星科学専攻
医学研究科	社会健康医学系専攻
工学研究科	社会基盤工学専攻、都市社会工学専攻、都市環境工学専攻、建築学専攻、機械理工学専攻
農学研究科	全専攻（農学専攻、森林科学専攻、応用生命科学専攻、応用生物科学専攻、地域環境科学専攻、生物資源経済学専攻、食品生物科学専攻）
アジア・アフリカ地域研究研究科	全専攻（東南アジア地域研究専攻、アフリカ地域研究専攻、グローバル地域研究専攻）
情報学研究科	社会情報学専攻、通信情報システム専攻
地球環境学堂・学舎	全専攻（地球環境学専攻、環境マネジメント専攻）

## 4. 出願書類・募集要項の請求

以下の(1)～(3)を学際融合教育研究推進センター・グローバル生存学大学院連携ユニットにおいて配付する。

- (1) 博士課程教育リーディングプログラム編入希望調書(編入条件確認書を含む)
- (2) 願書 1式
- (3) 募集要項 1部

配付場所： 京都市左京区中阿達町1番 京都大学東一条館1階 GSS 事務室  
京都大学学際融合教育研究推進センター  
グローバル生存学大学院連携ユニット 事務室 電話：075-762-2163・2164

配付期間： 平成29年3月1日(水)～4月19日(水) 平日午前9時から午後5時

## 5. 出願手続

学際融合教育研究推進センター・グローバル生存学大学院連携ユニットに願書等一式を持参し提出すること。持参できない場合は、封筒の表に「出願書類在中」と朱書きのうえ配達状況が記録される方法(書留郵便等)で提出すること。4月19日(水)午後5時必着

- (1) 博士課程教育リーディングプログラム編入希望調書(編入条件確認書を含む)
- (2) 願書 1式
- (3) 出身大学の学業成績証明書
- (4) 出身大学院の学業成績証明書
- (5) 勤務先からの在職経験証明(編入条件(A)に該当する者のみ)
- (6) 英語検定試験の成績表

平成27年4月以降に受験したもので平成29年4月19日までに提出可能な英語検定試験の成績(TOEFL、TOEIC、IELTS)。ただし提出できない場合は、平成29年7月6日(木)までに必ず提出すること。

・TOEFLの場合はTOEFL - iBT (internet-Based Test)、またはTOEFL - PBT (Paper-Based Test)、TOEICの場合は日本または韓国で実施されるTOEIC公開テストのみ受け付ける。TOEFL - ITPやTOEIC - IPなどの団体験の成績証明書は無効となるので注意されたい。

・成績証明書は原本に限り、コピーは受け付けない。また、後日書類に不正が認められた場合には合格を取り消すことがある。

- (7) 編入条件B-2及び該当するB-3-1～B-3-2が確認できる関係書類(例：履修内容の記載されているシラバス等)(編入条件(B)に該当する者のみ)

提出場所： 〒606-8306

京都市左京区吉田中阿達町1番地 京都大学東一条館1階 GSS 事務室(119室)  
京都大学学際融合教育研究推進センター  
グローバル生存学大学院連携ユニット 事務室 電話：075-726-2163・2164

受付期間： 平成29年4月14日(金)～4月19日(水) 平日午前9時から午後5時

## 6. プログラム履修者（3年次予備生）の選抜方法

願書、出身大学の学業成績及び編入に至るまでの活動実績書による書類審査によって選抜する。ただし、必要に応じて面接審査を行うことがある。

※ 面接審査の日時は、平成 29 年 4 月 24 日（月）までに願書に記載のメールアドレスに通知し、面接は 4 月 25 日（火）に行う。

## 7. プログラム履修者（3年次予備生）の合格発表

プログラム履修者（3年次予備生）の合格発表は、5月12日（金）にホームページにおいて行う。

## 8. リーディングプログラム予科について

プログラム履修者（3年次予備生）は、7月までの「リーディングプログラム予科」の間に、自らの研究科の課程の履修を進めるとともに、本プログラムの目的と内容を理解し、自らの能力と適性を確かめることとする。そのため、このリーディング予科期間に履修者（予科生及び3年次予備生）全員を対象とした全体セミナー（必修科目「グローバル生存学」の指定するセッション）などを行う。

※ プログラム予科の期間中に本プログラムの履修を辞退したい場合は、書面（様式自由、署名または捺印すること）にてグローバル生存学大学院連携ユニット事務室に届け出ること。

## 9. プログラム履修者（本科生）の選考

7月末までに資格審査・選考を行い、プログラム履修者（3年次予備生）の中から8月以後のプログラム履修者（本科生）を選考する。その選考の際の判断材料は、

- (1) リーディング予科全体セミナー（必修科目「グローバル生存学」の指定するセッション）の成績（出席、英文課題レポート、英語プレゼンテーション、グループディスカッション）
- (2) 平成27年4月以降に受験したもので平成29年7月6日（木）までに提出可能な英語検定試験の成績（TOEFL、TOEIC、IELTS）
  - ・ TOEFLの場合はTOEFL - iBT（internet-Based Test）、またはTOEFL - PBT（Paper-Based Test）、TOEICの場合は日本または韓国で実施されるTOEIC公開テストのみ受け付ける。TOEFL - ITPやTOEIC - IPなどの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。
  - ・ 成績証明書は原本に限り、コピーは受け付けない。また、後日書類に不正が認められた場合には合格を取り消すことがある。

（参考）1. 編入条件

英語能力が以下のいずれかと同等以上である者。

- ・ TOEIC 730 点以上
- ・ TOEFL - iBT 79 点以上
- ・ IELST 6 以上
- ・ 国連英検 A 級以上

- (3) 予科最終レポート（研究・学修計画）の内容
- (4) 編入に至るまでの活動実績書
- (5) 修士論文の概要（英文）
- (6) 編入に至るまでの活動とGSSのカリキュラムや内容との関連（英文）
- (7) 博士論文の研究計画（英文）
- (8) 意志確認書

などとする。

上記（5）～（7）は、博士論文研究基礎力審査（QE）のために用いられる。

詳細については、グローバル生存学大学院連携ユニットの入進学審査委員会が定めるものとし、履修者（3年次予備生）にはオリエンテーション時など適切な時期に知らせる。

## 10. プログラム履修者（本科生）の合格発表

プログラム履修者（本科生）の合格発表は、7月末までにホームページにおいて行う。

選ばれた学生は、プログラム履修者（本科生）として、8月からグローバル生存学の学位プログラムを本格的に履修する。学位プログラムの詳細は、平成29年度に配付する履修要項を参照されたい。

## 11. 個人情報の取り扱いについて

取得した個人情報は、プログラム履修者の選抜および履修に伴い必要となる業務のために、「京都大学における個人情報の保護に関する規程」の定めるところにより取り扱う。

## 12. プログラム履修者（本科生）決定までの流れ

上記の手順を以下に図示する。

時期	手続き項目	備考
3/1-4/19	出願書類・募集要項の請求、配付	GSS ユニット事務室
	↓	
4/3-7	研究科・専攻の新入生オリエンテーション (ガイダンス) で GSS 募集要項の配付	
	↓	
4/3-7	GSS 募集説明会 (吉田地区、桂地区、宇治地区)	
	↓	
4 月中 (研究科による)	各研究科・専攻での履修登録 (他研究科科目の聴講願も提出)	(学生が各研究科 において手続き)
	↓	
4/14-19	出願書類の受付	GSS ユニット事務室
	↓	
4/25	プログラム履修者 (3 年次予備生) の選抜 書類審査 (必要に応じて面接審査)	(面接場所は追って通知)
	↓	
5/12	プログラム履修者 (3 年次予備生) の合格発表	GSS ホームページ
	↓	
5 月中旬	プログラム履修者 (3 年次予備生) オリエンテーション	
	↓	
5 月中旬-6 月中旬	リーディング予科全体セミナー	(詳細は追って通知)
	↓	
7 月	プログラム履修者 (本科生) の選抜	
	↓	
7 月下旬	プログラム履修者 (本科生) の合格発表 研究活動経費・特待生奨励金受給の申請	GSS ホームページ
	↓	
8 月上旬	平成 29 年度入学生 GSS プログラム本科の開始 GSS 入学式・オリエンテーション 特待生奨励金受給者の発表	
	↓	
9 月下旬	研究活動経費受給者の発表	GSS ユニット事務室

(参考)

前年度（平成 28 年度）リーディングプログラムの実施状況について

(1) プログラム履修（予科生）の履修課題

- ・GSS 全体セミナー：概論レクチャー6、概論レクチャーの英文レポート 6 回、英語プレゼンテーション（「発表 15 分＋質疑応答 15 分」）とグループディスカッション（50 分）
- ・予科最終レポート（研究・学修計画）

(2) プログラム履修者（本科生）の履修課題（GSS ホームルームは必修、それ以外は履修者が選択）

- ・GSS ホームルーム（月 1 回）
- ・学際ゼミナール 20 回（1 回コース 16 回、3 回コース 1 回、5 回コース 1 回、8 回コース 1 回、リーダーシップ育成ワークショップ 1 日間コース 1 回）
- ・インターンシップ研修 4 回（サマーインターンシップみずほ第一ファイナンシャルテクノロジー、2016 RIKEN AICS HPC 計算科学インターンシッププログラム、Fuji Xerox, Ltd. Internship Opportunity、2016 外務省米国インターンシッププログラム）
- ・国際学術交流 1 回（国際学術・文化交流を通して食の安全を国際的レベルで考える：海外でのワークショップでの指導と自力探索の経験を積んで国際感覚を磨く）

(3) プログラム履修者状況

- ・プログラム履修者（予科生）14 名（3 年次編入予備生）2 名（平成 28 年 4 月～9 月）
- ・プログラム履修者（本科生・3 年次編入含む（平成 28 年 10 月 1 日現在））80 名  
（5 年次生 17 名：教育 1、経済 1、理 1、医 1、工 4、農 1、アジア・アフリカ 5、情報 1、地球環境 2 4 年次生 17 名：教育 1、理 1、医 2、工 3、農 3、アジア・アフリカ 5、情報 1、地球環境 1 3 年次生 13 名：理 1、医 3、工 4、アジア・アフリカ 3、情報 1、地球環境 1 2 年次生 19 名：教育 1、経済 2、医 5、工 2、農 3、アジア・アフリカ 5、地球環境 1 1 年次生 14 名：経済 1、理 1、医 1、工 4、農 2、アジア・アフリカ 5）

(4) プログラム履修者への経済支援状況

プログラム履修者には、リーディング博士課程における履修及び学位研究に専念するための以下のような経済支援を行っている。

- ・受給資格\*を満たす優秀な履修者に対して月額 20 万円の特待生奨励金（28 年度実績：5 年次生 12 名、4 年次生 10 名、3 年次生 12 名、2 年次生 18 名、1 年次生 12 名）を支給
- ・研究計画を公募・審査し、独創的な研究活動を行うための経費として年額上限 100 万円（半期 50 万円）の研究活動経費（28 年度実績：5 年次生 12 名、4 年次生 13 名、3 年次生 10 名、2 年次生 19 名、1 年次生 12 名）を配分
- ・リーディングプログラムを履修するための経費として研究活動経費を申請しなかった者、及び研究活動経費の受給が認められなかった者に年額 30 万円を上限に学会参加旅費等を補助  
ただし、受給資格を満たす者とは、以下の[1]～[5]のすべてを満たす者である。

[1] 本プログラムの履修者（本科生）

[2] 各種奨学金等による支給を受けていない者

[3] アルバイト等による収入を得ていない者

[4] 本学大学院の在籍期間（休学期間を除く）が 5 年を超えない者

[5] 本プログラムにおける成績等評価において特に優秀と認められる者

(注) 平成 29 年度の 3 年次編入者は、平成 27 年度入学者と同じ学年（L3）となる。